

氷冷方式ディスペンサー取扱説明書

左下の図1～3を見ながら、1～9の手順をご確認ください。

はじめに

氷冷方式

ディスペンサー内のコールドプレートで氷で冷やして注ぎ出す方式です。

- 電源は不要です。
- 水は常に補充する必要があります。
- ディスペンサー内に水を補充し続ければ、ビールを連続して注出することが可能です。
- 持ち運びができて、屋外などの使用に適しています。

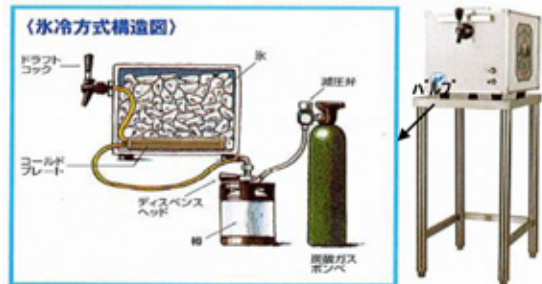
この度は、アサヒビールをご用命頂き誠にありがとうございます。
氷冷方式の簡単な取扱説明書となりますので、
ご使用に際し、下記の事項を安全に、
正しくご使用いただきますようお願い申し上げます。



注意

ビールホースを無理に
引っ張らないでください。
ビール継手からホースが
外れて、ビールが吹き出す
ことがあります。

ガスホースも無理に引っ張ると
ガス継手からホースが外れて、
吹き出すことがあります。



取り扱い手順

図1



図2



図3



1 ビール注出に適した場所に設置してください

- 1) 直射日光の当たらない場所に、水平に正しく設置してください。
- 2) 凍結のおそれのあるところ、防水処理のしていないところには設置しないでください。

2 排水ホースを取り付けてください 図1

- 1) 溶けた氷が排出できる位置に設置し、ホースが折れ曲がらないよう図1-①へ取り付けてください。

3 ビールホース/ガスホースを取り付けてください 図1～図3

- 1) ビールホースをディスペンサー 図1-②とヘッド上部 図2のヘッドへ接続してください。
- 2) ガスホースを減圧弁(圧力調整器) 図3-①とヘッド 図3-②へそれぞれ確実に接続してください。

4 減圧弁(圧力調整器)を炭酸ガスボンベ 図1-③に取り付けてください

5 アイスボックス内に氷を入れてください 図1-④(ドライアイス不可)

- 1) 氷はどんな氷でも使用できますが、極低温(-5度以下)の冷凍庫などで保存した氷を使用しますとコールドプレート及び配管内のビールが凍結し、ビールが抽出できなくなる場合があります。
- 2) アイスボックス内で、アイスピックなど尖ったものは使用しないでください。
- 3) 氷の大きさの目安は、10Lの樽生ビール1本を注ぎ出す場合、樽の温度が25℃ なら 2.5kg 樽の温度が30℃ なら 3.0kg となりますが樽の大きさや温度によっても異なります。氷が無くなると注ぎ出しができませんので、氷の大きさは最低限必要な目安とし、多めにご準備ください。なお、氷屋さんで購入される氷は、1貫目が約4Kgです。

6 ヘッドをビール樽に取り付けてください 図2

ビール樽の口金と、ヘッドの凸凹を合わせて、時計回りに約90度まわしてください。

7 減圧弁(圧力調整器)を下記の順序で調節してください 図3

- 1) 減圧弁のハンドルを(ダイヤル)が0になっていることを確認し(図3-①)、ガスボンベのバルブを開けてください(反時計回り)。
- 2) 減圧弁のダイヤル 図3-①を時計回りにまわし、ダイヤル値を下記の表を参考に設定してください。

樽の温度	20℃未満	20℃	25℃	30℃
ガス圧力	2	2.5	3	3.5

8 ヘッドのハンドルを下ろしてください

ドラフトコック(ディスペンサーのノズル)が閉じているのを確認の上、ヘッドのハンドルを下ろしてください。

9 ドラフトコックを手前に引くとビールが出ます

ただし、配管内に空気が入ってる場合(新設置やビール樽を交換したとき)にはノズルのハンドルを奥に押し、粗い泡が細くなってから手前に引き、ビールを注ぎます。
最初の1～2杯は泡が多く出ますのでご了承ください。